

## 第4回品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定委員会 議事概要

日時：平成21年8月31日 14:00～16:00

場所：品川区役所第2庁舎251252・253会議室

### 議事次第

#### 1 開会

#### 2 委員長挨拶

##### 委員長

- ・今日は、ビジョンの「骨子案」を確定させるための検討を行いたい。今日の検討を踏まえて、次回はビジョンの「素案」をまとめ、最後にビジョンとして取りまとめたい。

#### 3 ビジョン骨子案について意見交換

##### 委員長

- ・前回、皆様からいただいた意見、またこれまでの調査をもとに私と事務局で、骨子案のたたき台を用意した。事務局からこの内容について説明の後、皆様に意見を伺いたい。

##### 事務局 ビジョン骨子案について、資料に基づき事務局より説明

##### 委員長

- ・第1章は、(区の基本構想や条例の)各論・具体論となっている。
- ・第2章は、現状分析や世論といったもの。これまで委員会で紹介してきた現状分析や調査などをすべて盛り込むとページ数も多くなってしまうため、ここでは、ビジョンを描き、それを実現するための施策・振興案の方向性を示す上で外せない重要な現状認識について書き込んでいく。ここに書き切れない各種資料は、巻末に「資料編」をつける予定。2章には現状分析の要約、重要な点を抜き出し、資料編に細かい点を書く。また、いまここに書かれていることは良いことが多く、課題的なことがまだあまり意見がない。これが現状かもしれないが、いやこの意見を追求していったほうがよいという意見があればいただきたい。
- ・第3章は、現状を踏まえた上で、品川区の将来はどうなるべきか、というこれが最も重要な部分。この理念1・2・3を通じて作り出す「将来のまちづくりの姿」はまだ空欄になっている。今日の委員会では、ここで外せない「キーワード」や「文章のニュアンス」は決めたい。
- ・第4章は、第3章で示したビジョンを実現するのにどういう振興策を展開していくのか

という大枠の方向を定めるもの。全部で7つの目指すべき姿があり、そこへ到達するための目標を掲げていくという行程になっている。

- ・第5章はまだ書かれてないが、目指すべきゴールが定められ、そこへ行くための方向性を具体的にどういう体制でやっていくかをまとめていく部分として位置づけている。特に今回は、まちづくりの問題まで決めていこうということから、行政がサービスとして提供するものを充実させるだけの実現せず、その地域の人々、個人だけでなく企業も、地域の方も一緒に参画して、地域のこととして役割分担をどのようにしていくか。文化やスポーツを通じてまちづくりを描こうという振興ビジョンなので、行政が何をします、だけでなく、地域の主たる市民がどう参画していくのかということも含めて描いていくほうがいいのではないかとということで、この章のかたちになっている。
- ・今日の議論をもとに次回までにビジョンの素案を作ることになるが、今日は骨子の章立てと個々の中身について意見をいただきたい。まず、章立てについてご意見あればいただきたい。

#### **委員**

- ・章立ては一般的であり、端的な形で分かりやすくなっているので、これで良いと思う。

#### **委員**

- ・章立てはオーソドックスで、これで良いと思う。ただし、この委員会で議論をした文化芸術・スポーツの理念（生活に欠かせないもの、権利など）を各章の前の前文で示すべきではないか。

#### **委員長**

- ・そこは大事なところ。どういう意義を持つのか。その重要性を1章の最初に。まちづくりのあり方も、行政が、実現するという面では関わっていること、地域の方々のあり方も含めて、行政生活上の背景だけでなく、日本の社会、世界の中で、人間が生きる上での文化やスポーツのあり方をきちんと書き込んでおきたい。（特に異論がないようなので、ぜひ設けたい）
- ・全体のフレームについて他に意見がないようなので、中身の議論に入っていきたい。どの部分からでも結構なので、事務局の説明を聞いて、補足や強調したいこと等、気づいた点からご意見をいただきたい。

#### **委員**

- ・（第4章の）目標1、3、4、5に、「各種団体」という表記があるが、どういう団体なのか。目標4「地域の文化芸術・スポーツを育てる環境づくり」の「環境」とはどう意味か。目標5で「地域の伝統文化の保存、活用、発展を図る」と書いてあるが、その発掘、埋もれている歴史的な文化もあると思う。その辺をお答えいただきたい。

#### **事務局**

- ・「各種団体」とは、スポーツ団体・文化団体など、いろいろな団体があるが、昼間区民である企業も含め、例示として挙げている。この4つ言葉をつなげて特別な意義という

ものではない。

- ・「環境」については、(個別の)施設という環境整備はもちろん含まれる。都会である品川の中で、新しいもの(を作るの)は難しい部分もあるが、そうした中で、施設面から環境をどのように有効に効率的に使っていくのかということがひとつ。それから「プログラム」。様々な団体の活動を観に行く、教えてもらうといった、プログラムの環境で充実を図ること。トップアーティスト、トップアスリートに触れるような機会といったものも、環境のところで考えたい。
- ・「伝統文化」については、今まだ埋もれているような伝統文化はあると認識しており、そういったものの発展・活用というような、地域の方々に愛される文化財としての活用等を考えていきたい。

#### **委員長**

- ・(今回の骨子案は)これまで出たいろいろな意見を書いただけで、まだ階層的にきちんと整理されているわけではないので、レベルの違うものが出てくるケースもある。「環境づくり」も、いろいろなものが含まれることになるかと思う。
- ・環境づくりの前に書いてある「地域の文化芸術を育てる」というところがむしろ特徴的なところだと思っている。鑑賞や活動の機会などは今までも謳われてきたが、地域のもの・独特のものを育てていくというところは、必ずしも各地域で同じではなく、また、伝統的なものが得意でない地域もあるので、そこを強調し、育てるための環境、地域のものを育てるための環境整備を書いたと理解している。

#### **委員**

- ・「環境」という言葉はいろいろな意味でとらえられる。まだ骨子の段階なので、今後、環境という言葉をもっと明確にしていただきたい。都市環境、自然環境も、環境という言葉で表現されるし、(第4章の)目標の中に、環境という言葉が多く入っているので、今後、環境とは何かを明確にしていったほうが区民の皆さんにもわかりやすいと思う。

#### **委員長**

- ・たしかに「環境整備」というのは便利な言葉で、この言葉はどこに重点があるのかを明示しておくことは重要だと思う。

#### **委員**

- ・この骨子案には「権利としての文化芸術・スポーツの位置づけ」がないので、この事例はしっかりと確認する必要があると思う。にぎわい都市を文化・スポーツ振興を通じて実現するための役割、とあるが、この場の議論もそうだが、文化芸術・スポーツの目的自体はまちのにぎわいを作ることではなく、それぞれの個人や団体の活動が活発になることで、地域や人間性が豊かになるわけなので、権利として、保障するという視点が必要である。
- ・第2章の「品川のまちの好感度」で、キーワードとして抜けているかなと思っている。区民意識調査の中でも触れたが、全体的に言えば、文化やスポーツに参加したいという

希望は高いが、実際の参加は非常に低い。その参加のかたちもテレビを見るなどに留まっている。その現状はしっかりおさえる必要がある。現状をおさえたうえで、その対応策を。原因はどこにあるのか（働き方の長時間労働、金銭的、施設や設備の目的、運営側の問題...）。参加の希望は高いけれども、現状はかなっていないという、その現状のキーワードはしっかりとおさえる必要があると思う。

- ・第4章の目標4「良質な機会を提供する」で、「地域の文化芸術・スポーツを育てる環境づくり」という、この部分を具体化しなければ今回のビジョンにならないと思う。現状はどうなっているのか、環境づくりというのは具体的に何なのか。例えば、少年野球の人たちが練習場を確保するのが非常に困難になっている。学校の統廃合で校庭自体が減っているなど。この活動が地域の中でどういう役割を果たしてきたのか、そういう位置づけをしっかりと確認すべきだと思うし、こうした活動を振興するためには何が必要なのかも盛り込むべきかと思う。
- ・活動している方々は、子どもたちの健全育成だけでなく、もっと地域のつながりや大事なことをつかんでもらいたい、といろいろな熱い思いを持ってやっているのだから、それをしっかり位置づけて、この環境づくりを、具体的に何が必要か、行政にとって一番担うべき役割として示すべきだと思う。施設上のハード面、運営上のソフト面、料金的なところ、時間的な問題を含めて、具体的に示していくべきではないかと思う。
- ・第4章の目標3の「各種団体、地域、企業などの活動を支援し活かす」で、企業活動等の支援、とあるのは、どういう関係を意味しているのか、説明していただきたい。

### **事務局**

- ・活動支援についてはいろいろな考え方があると思う。「場所（の提供）」の支援もある。企業、いわゆる昼間区民といわれる方々もいる。今回グループインタビュー調査では、企業にも話を伺った。企業スポーツとして、子どもスポーツ教室を実施したりしている。そういった活動の情報提供や、さまざまな企業からの支援がある。たとえば、地域の大手企業スポーツに属さない方々、地域のスポーツの指導者との交流など、さまざまなかたちで、企業の文化活動・スポーツ活動に対していろんな支援をしていくやり方がある。
- ・区内の企業（に勤めている方）で文化活動をしている方々の話をきくと、ここ品川で働くことで、音楽活動など（を通して）潤滑剤になっていきたい、地域の人たちと一緒にいろんな活動をやっていきたいとおっしゃっているので、そういった面での情報提供もしていけるのではと感じている。

### **委員長**

- ・先ほど質問いただいた点（環境）については、とても大事なご指摘をいただいた。今後の意見としての文化・スポーツ全体の前文だけでなく、現状を踏まえるということは確かにあるので、大事な論点だと思う。
- ・ただ、ここを解決することが重要だということは、第4章の目標1に書いてあるところが、おっしゃっていた環境づくりのことを踏まえている。第5章に、区側から区民（昼

間区民も含めて)を書く。2章で書いたことをここ(5章)で書くことできちんと整理がつくかなと思う。

- ・目標については、これらは広くばらばらにあるというよりは、相互に関連しているものとしてとらえていただくとよい。先ほど指摘された「環境づくり」も、目標6で、仕組み、情報基盤の整備など、いろいろな方向性のものが出てきている。それらが相互に関連し合って、全体の意思疎通にもなっていく、そんな構造でやっていけたらと思う。

### **委員**

- ・先ほど委員の指摘にあった「権利としての文化」という考えは大事だと思う。ただ、現状とこれからの課題、で言うと、現状で行政への不満(を書いたり)要望するとののは今回のビジョンの考え方とは少し...必要だとは思いますが、区と区民の協働によって仕組みがうまくいくという方が、これまでの議論の中で出てきた基調だと思っている。
- ・第3章の理念で「人をつなぐ、資源をつなぐ、誇りにつなぐ」と出てくるが、今でもいろんな文化活動は区内には十分ある。文化振興事業団でも、ちゃんとつかんで、つないでいく、そういう努力をすればもっといろいろ活きるものがあると気が付き始めている。「つなぐ」という言葉に象徴される通り、場の整備や整備上の課題もありつつも、(今回のビジョンでは)区民と区民との結びつきや、資源の結びつきをもう少し前面に出した方が、行政計画としても、区民のビジョンとしても生きてくると思う。

### **委員長**

- ・第5章に関係するところかと思うが、何でもかんでも区や財団、外部団体が何かを作ってやっていくよりは、区内のいろんな活動をつないでいくことで、結果として、これまで活動の機会がなかった人たちに機会が与えられる、そういうかたちを目指していくほうが現実的であり、おそらく質の高い、良いものが提供できると思う。そのための仕組みを作るために行政は何らかの支え、仕組みづくりをやっていこうという方向性を検証していけるといいだろう。

### **委員**

- ・文化芸術・スポーツの振興がまちづくりに貢献してにぎわいを創出する、という考え方は難しいというのが実感である。こういう抽象的な、とらえどころのないものを指針として目に見えるものにしていかなくてはならない。これはとても難しい。
- ・まずトータルの指針を考える。各地域でジャズフェスティバルやジャズセッションをやっている。友人が、おやじバンドで先日スタジオでジャズフェスティバルをやったり、3カ月に1回、近隣の小売店で個人のライブもやっている。そういうものをまず全部、情報として管理する。そういう補完する仕組みをつくって、それによりプログラムがいろんなところで行われることによる、そのまちのひとつのファッションができてくるんじゃないかと思う。そのへんを補完する仕組みづくりが重要だと思う。
- ・今、まちでは、落語とかクラシックの音楽会をやるうとか、皆がいろんなことをやるうと考えている。いろんなところで考えるが、やる場所や環境の整っているところはでき

るし、なかなか手の届かないところは悩んでいる。

#### 委員

- ・骨子については、とてもまとまっていてよいと思う。スポーツの観点から、ビジョンの実現に向けて考えると、やはり、魅力がなければ区民は参加しないだろう。企画段階とか実施段階とか、その団体が考える内容は、その団体にしかわからないような状況ではなくて、こういう場の中でお互いに情報を持って、お互いに譲り合うような、それが全体ににぎわうような施策ができていけば、とても素晴らしいと思う。
- ・昔、大井競馬場で区民大会のお祭りがあった。区民が全体でお祭りをやったという、強く印象に残っており、あのような「にぎわい」はとても良いと思っている。ただ、続けるためには予算、お金の話は（今回のビジョンでは）まだ全然出ていないが、（活動の）継続につながるかどうか、やはり吟味してやらなくてはいけないと思う。
- ・私はスポーツのいろいろな大会を企画するが、PR不足やその内容によって僅かな人しか来ないとか、とても残念なことが往々にしてある。（骨子案に）「スポーツを育てる環境づくり」とあるが、今の子どもたちが体育をするためにはどうすればいいのか。自分たちができること、何をしたらいいのかということ、ゲームよりもスポーツや身体を動かすこと、そういうものをもう少し外に出せるような、魅力ある企画をこのビジョンの中でやっていければいいと思う。
- ・（骨子案に）「国際交流」「財団スポーツ」とあるが、スポーツしかないということではなく、芸術もスポーツをやる時に、（同時に）芸術を展示したり何かしたり、いろんなことを、一緒に考えるのもよいのでは。

#### 委員

- ・この文化芸術スポーツ振興ビジョンが、区内だけでなく、広く区外に、他区にもプロモーションできる内容にしたい。「品川だから」という特徴が、この中に色づけされて打ち出されるということ。骨子案の中では、いろんなキーワードが散りばめられているが、具体化した文章の中でも、そういうものが含まれてほしいと思う。そのひとつが、品川の置かれている環境、地域が、たとえば日本の中心都市の東京23区の中にひとつで、23区の中でも割と歴史があって、いま、衣食住、学校、作業、そういうバランスのとれた、住宅地域だけではない、工業地域だけではない、という環境の中であって、文化芸術スポーツ振興はこういうふうを考えて、品川は考えていくというところを描きたい。
- ・このようなビジョンはいろいろなところ（地方自治体や区）で作られているのではないかと思う。それぞれ見たときに、「ああ、そうか、品川はここが違うんだ」「こういうところだから、こういうことが出てくるんだな」ということが明示される、あるいは提示されることを、品川が作り出すビジョンの中には散りばめたい。
- ・品川ならではの、都市で東京で、いろいろな新しいものに触れる機会がたくさんあると思う。逆に、地方にあるものにはなかなか触れることができない。そういう書きぶりがある、その中でこういう文化芸術・スポーツ振興なんだということが具体化すればいい。

可能性もあるし、きっと制限もあるだろう。先ほどのような、場所がないとか緑がないとか、そういう言葉もそれについての表現がほしい。

- ・昨今の社会情勢や動向を見ていると、キーワードの中に「心と体の健康を追求する」というようなものも、(ビジョンで)目指すものの中に入れたい。文化芸術・スポーツと言えば、体だけではなく、心の健康も追求していくことを品川は求めている、それをこういう環境の中で、こういうやり方でやっていくんだという書きぶりであつたらいいと思う。

#### **委員長**

- ・「品川ならでは」ということで外向けにアピールするところは、まさにこのビジョンの一番の看板になる。骨子案の第3章で、どういうまちを作るのかを確認することで整理されたことが品川としてのビジョンにつながる。骨子案では空欄になっていて、ここに何を書き込むかを今日ここで議論したい。タイトルになるところ。
- ・他の自治体の固有名詞だけ変えれば整備できるようなものではなくて、品川区ならではのビジョンをここに書き込むとどういうまちになるか。キーワードの一つとして区長から「にぎわい」という言葉が出されているが、この委員会で取りまとめて、品川区がどういうまちを作っていくのかをこの部分に書き込んでいくことになる。

#### **委員**

- ・最初の章立てで、基本的な考え方のところでは思ったのは、長期基本計画に、委員長のごあいさつがあつたので、この中にはそういうものが入っていくのかなと思っていた。なぜ(このビジョンを)作っているのかが入ってくるのかと考えている。
- ・骨子案の第2章に「伝統文化」が入っていないような気がする。第4章の目標5には「伝統文化を継承発展させる」と出てくるが、第2章の現状と課題の中にもその辺を少し入れてもよいのでは。
- ・これからの展開の中で、高齢生涯学習としてのスポーツ、障がい者のスポーツのことが、あまりないようだ。区の長期基本計画では、生涯学習的なスポーツも強調しているので、そうしたことも入れてほしい。
- ・全体的にビジョン、方向性を示すという中で、たとえば施設の利用料とかの話があつたが、この中では(入れるのは)違うんじゃないかと思う。
- ・第5章の「ビジョンの実現に向けて」では、区民、団体、区という中に、企業はどこに入ってくるのか。企業は、団体に入るのか。企業の役割と結び付けるとき、企業が何をやっていくかによって、どこと結びつけて、どんなふうになるのかがわからなかった。今後、スポーツ協会や文化振興事業団の関わりは大きくなるので、こうした、つなぎの役割を強調してほしい。
- ・区の「文化芸術・スポーツのまちづくり条例」の前文に謳われていることがあまり入っていないので、このビジョンの前文にうまく入れてほしい。
- ・第3章の中で、これからの将来像のまちづくり、まちの姿、イメージという部分がまだ

あまり出ていない。ここはやはり大事なので、これから盛り込んでいく必要がある。

#### **委員長**

- ・まさに何を生かすのかということは、ここで今日の議論の中から、次の本論を起こす参考にしたいと思っている。先ほどからの意見を聞くと、高齢者・障がい者がスポーツに参画できることを通じて、心と体の健康が保たれるということ。今回、区長からあった「にぎわい」は、必ずしもどこから何万人というお客が来てにぎわうということではなく、区民がまちに出てスポーツや文化活動をすることでにぎわう、という姿が、品川区としての質の高いにぎわいだと考えれば、区民の方々の心と体が健康であって、障がい者も高齢者も子どもたちも参画できることがにぎわいにつながる。おそらくそこは整合性をもって整理できると思う。

#### **委員**

- ・区の長期基本計画の中で、基本理念「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」とある。この「笑顔」の言葉が今まで出ていない。楽しむとかにぎわい、その中にせつかく基本計画で作っているのを使ってほしい。

#### **委員**

- ・目指す将来のまちの姿のイメージについて、難し過ぎると面白くないが、「次世代とともににぎわう笑顔のまちづくり」というようなメッセージを考えた。

#### **委員**

- ・（今回のビジョンは）文化芸術だけでなく、スポーツも加えて、大変欲張りなものなので、どうしても間口が広くなってしまい、すべて総花的に何度も言及しなくてはならないとなると、ターゲットが絞りにくくなる。むしろそうなることが、この全体の目的から見て良いのかということも、もう一度振り返ってみる必要がある。あれも入れたい、これも入れたいとなると、そのひとつずつは必要かもしれないが、この目的をカバーするために全体のかたちに強さがなくなるとか、ターゲットがぼやけてしまうといったデメリットも考えていかなければいけない。それが難しさだと思う。そういったことも含めて、非常に具合のいい骨子案になっていると思う。

#### **委員**

- ・第3章の理念1「人をつなぐ」について。「文化芸術・スポーツが人と人をつなぐ」におそらく込められているとは思いますが、いわゆる「子どもからお年寄りまで」、世代を超えて誰もが文化芸術・スポーツに親しめるまちづくり、のようなイメージを入れたい。第4章に「いつでも、どこでも、だれでも」とあるが、特にこの品川において、世代を超えて誰もが文化芸術に親しめる、笑顔とにぎわいのまち品川、とかそんなイメージを提案させていただきたい。

#### **委員長**

- ・指摘の通り、まさに住民が参加して、文化とかスポーツとか何かを通じて、みんなが交流し合えるとか、そういう要素を（入れたいと）感じている。



## 委員

- ・第3章の理念2「まちの資源をつなぐ」の「資源」という言葉について。文化芸術やスポーツを資源として扱うということに馴染みがない。資源は、活用することが目的だが、文化・スポーツは個人や団体の営みであって、それぞれが活発になることが、結果としてまちのにぎわいや豊かさにつながるわけで、石油や石炭といった資源とは違うという感じがしてならない。資源、ととらえるのは違和感があるので教えていただきたい。
- ・理念3「誇りにつなぐ」について。「品川のまちへの愛着・誇りにつなげる」と書いてあるが、誇りというのは、心、心情の問題になる。例えば、神社のお雛子も、海外の人が神輿を担いでいても、みんなで盛り上げようという部分が多いので、そこを「誇りにつなぐ」となると、つなぐことが目的ではなく、ただ交流することによって、コミュニティが発達するという面もあるので気になる。
- ・豊かな文化芸術は、何か違いを共有し合うことでお互いが成長・発達していくのではとも思うので、こうした点について解説をしていただきたい。

## 委員長

- ・第3章の理念すべてを「つなぐ」という言葉で揃えるのは少し無理があるかもしれないが、「資源」という言葉については、最近「文化資源学」という学問分野や学会があり、文化は単に文化だから価値があるといったところが、その重要性をきちんと評価して、果たしていこうという観点で研究活動が進んでおり、それがいろいろなまちづくりへとつながっている。
- ・「資源」という言葉は、たしかに日本語のニュアンスからすると鉄鉱石とか石油とか鉱物資源などだが、経済学におけるリソース（資源）は、何か有用なものを満たすための全ての手段を意味しており、労働力や資本も資源となる。文化＝人間にとっての創造環境だから、創造するためには資源が必要という流れで、人と文化がリソース（資源）だろうということで、資源という言葉が最近使われるようになってきた。従来の語感では少し違和感があるかもしれないが、今日では、人的資源（ヒューマンリソースも全部（資源に）含まれることになってくる。

## 委員

- ・（資源という言葉ではなく）「まちの魅力」でいいのでは。

## 委員長

- ・創造する活動だと考えると、そのためのリソース（資源）だということ。私のように経済学から入っていくと（資源という言葉は）抵抗はないが、資源エネルギー庁というものもあるし、たしかに違和感はあるかと思う。

## 委員

- ・温かみがある文章にする。

## 委員長

- ・身体が資本、という言い方をするが、文化的に創造する時のストックとして「文化資本」

という言い方をする。文化的なものを補っていく基盤として位置づけるような議論も進んでいる。そのときだけの消費を増やすのではなく、蓄積（ストック）として資本形成をしていくことが自治体力に十分にあって、そのキャピタル（資本）の中には有形・無形のものもある。人間の中に教育方針によって蓄積される人的資本（ヒューマンキャピタル）や、人と人のネットワークの中に形成される、自治体関係者のソーシャルキャピタル（社会資本）も、地域の基盤を育成し、産業を高めていく上でも重要だという議論もされている。OECDの研究で、いわゆる幸福の国というのはそうした、ヒューマンキャピタルやソーシャルキャピタルが、GDPで表された経済的な豊かさを超えたところの、本当の豊かさ、本当の幸せを位置づけるためには、むしろ歴史や時間軸というのが重要ということを言われ始めている。そういう中で使われているキャピタルという言葉をもそのまま日本語に訳して使っている。

- ・概念としてはそうだが、言葉として、一般の区民の方々に違和感があるというなら、もっと良い言い換えあればぜひ教えていただきたい。

#### **委員**

- ・理念として意味はわかるが、（ビジョンを）読む人は普通の人なので、「財産」という言い方でもよいかと思う。
- ・第2章の2番目で触れていると思うが、「多様性」というものを許容する文言のようなものがほしい。例えば、先ほどのおやじバンドの話のように、お父さんお母さんがバンドをやっていて、一流ではないかもしれないが、そういう演奏を小学生・中学生に聴かせるような多様性も（今回のビジョンの中に）あってほしいと思う。一流のアスリートやアーティストだけが人に何かを与えられる。それだけだとちょっとつまらないかなと思った。二流三流を見の中からも積み上げるものはあると思うので、そういう場所を持ちたい。そういう機会を上手に使い分けたいと思い、そういう文言が入れられれば有難い。

#### **委員**

- ・第3章の「目指すべき将来のまちの姿」で「にぎわい」という言葉があるが、この言葉にどういうイメージを持っているか、コンセンサスを得られていないのではと感じている。私、委員長を含めて、各々がそれぞれにぎわいのイメージを持っている。具体的にどんな施策を取るのかは、そのイメージによって変わってくる。私は商店街をやっているので、我々の思っているにぎわいは結構現実的なにぎわいだと思う。

#### **委員長**

- ・そこを皆さんに意見を出していただきたい。これまでの話からすると、必ずしもビッグイベントをやった人が押し寄せるというにぎわいを想定されていないように受けとめている。むしろ、区民の方々が自宅やオフィスから外に出て、住民同士で活動を通じて交流することでにぎわいがあるという印象を持っている。
- ・このにぎわいのコンセンサスがなくぶれていると、目指すべき方向はばらばらになってしまう。品川区として目指すべき、区外にその魅力を誇れる、こんなにいい魅力が品川

だといえるようにぎわいをどう表現するか、ぜひ議論いただきたい。

#### **山田副区長**

- ・基本構想の検討の中で、「笑顔」をコンセプトとして出したのは、他の自治体の基本構想等では見ないと当時の委員長からお話があった。「笑顔」は、公募での一般市民の方から「あいさつが元気に交わされる」「笑顔がお互いに出せるようなまち」が将来私たちのあってほしいまちなんです、と（意見があった）。ぜひその笑顔というキーワードを活かした基本構想のキャッチフレーズを作ろうということで、「輝く笑顔 住み続けたいまちしながわ」となった。
- ・今回の議論でも「にぎわい」のとらえ方は随分違うと思うが、商売のにぎわいではなくて、人間としての体と心のバランスが取れていくことが、元気・健康のもとになるというふう最終的にあるのではないかと思う。にぎわいは、最終的には健康であり、笑顔があふれるというようなイメージが作れるといいかなと、基本構想と今回のビジョンを合わせて考えるとそこだと思う。
- ・品川らしさについては、皆さんで議論しないと、本当の品川らしさはなかなかはっきり出てこないかと思う。品川区では「緊急セキュリティーシステム」（まちの協力員 12,000人の力と、携帯電話の電波を使って子どもたちの居場所を確認するIT技術を使った、日本初のシステム）を使ったが、それが実現できたのも、まちの中の共同性が非常に高く、助け合うことがあるためにできる。他の自治体でも、そのIT機器は導入できるが、人との結びつきまで作り上げるのは非常に大変なので、なかなか進まない。まさに、ここが「品川らしさ」だと思っている。
- ・文化とスポーツについても、私たちの知らないところに小さな文化があったり、スポーツ団体があって、それぞれ個別で活動しているのをどういうかたちで把握し、皆さんに知っていただくのか。情報の収集と発信が、行政としてどこまでできるかが、今の私の課題である。

#### **委員**

- ・（骨子案の中に）国際交流的なものが入っていない。区の文化芸術・スポーツまちづくり条例にも、国際交流の推進という項目を入れており、また、長期基本計画の3つの理念の中にも、国際交流、国際都市という言葉も出てきている。（骨子案の）第4章目標の中に国際交流的なものを入れてほしい。一方で、長期基本計画の2番目の理念では「伝統と文化を育み活かす」とあるので、骨子案の目標5番「伝統文化の保存」はきちんと残してほしい。

#### **委員**

- ・（国際交流的な内容については）目標1の方向性として「いつでも、どこでも、だれでも」という言葉が入っているが、その書き込みの中に入れることができる。品川区に住んでいる方は、国籍を問わず、今まさに「地域の国際化」を進めているので、盛り込めるようにできたらと思う。

### **委員長**

- ・品川区の国際化は、地域に住んでいる色々な国籍の人の、内なる国際化を意図しているのか、あるいは、外との交流を活かそうということなのか。

### **宮地部長**

- ・品川区で国際交流が始まったのは25年前。品川区は「非核平和都市品川宣言」を行い、それをもっと世界の都市との結びつきの中で広めようと、姉妹都市との交流も積極的に行ってきた。しかし、現在、区内に色々な国籍の方が住んでいるので、外との交流だけではなく、地域の中で住んでらっしゃる方との交流をもっと活発にしていこうと、地域の国際化を進めているところなので、ここの文化・スポーツについても、「いつでも、どこでも、だれでも」の中に入るのではないかと先ほど述べた。

### **委員**

- ・たしかに今回、文化・スポーツの活動を通じたにぎわいを、というテーマ・条件のようにあるが、にぎわいという言葉にこだわり過ぎると、どうしても無理があると思う。結果として、にぎわいにつながるような、あるいは説明文の中に盛り込まれるような感じでよいのでは。
- ・（骨子案の）第3章の3つの理念で、「つなぐ」というのは無理やり多様性を一本化するようなニュアンスがあるので、「つながる」のように活用を変えてはどうか。
- ・感動と笑顔がつながるまち = にぎわい、のようなものであまりこだわらなくてもいい。

### **委員**

- ・にぎわい、というのはいったい何なのか。自分もいろんなイベントをしたり、手伝ったりしているので、人が集まってくるのはにぎわいだとは思いますが、それを「にぎわい」ととらえるのか。私自身が考えていた「にぎわい」は、家から出て、買い物に行く途中に知り合いに会って“おはよう”と言って、そこでちょっとした会話が生まれたりするような、とても小さなことにつながりがにぎわいなのかなと思う。（骨子案の）理念1「人をつなぐ」もそのようなイメージで考えていたが、議論が大きくなってわからなくなってきた。
- ・品川らしさも、きっとたくさんあると思う。旧東海道もそうだし、七福神があったりとか、まだまだ自分の知らないことも含めて、たくさんあると思う。観光協会ができて、そういう情報が一つにまとまっているように見えても、まだ知らない部分がたくさんある。ひとつにまとめるのは確かに難しいと思うが、（情報が）一つにまとまっている状態にあれば、どんな人でもアクセスができて、どんな人でも知ることができて、それが話題になって、人と人がつながる。そういうのが「にぎわい」なのかなと思う。

### **委員長**

- ・今、委員がおっしゃられたようなところが一番大事なところ。例示を出すと、ソーシャルキャピタルのような、人と人とのつながりがあるかないかによって、地域の様々なパフォーマンスが変わってくる。都会で隣に誰が住んでいるか知らないような、都市化さ

れて便利で豊かなところでありながらも、昔からあるようなつながりが残っていて、それが文化やスポーツの活動として人と人がつながって、そこでいろんな国籍の人や障がいを持った人や高齢者、健常者の人もつながっていけるところが、品川のまちだ。

- ・数年前に港区のビジョンを作るのに関わったが、港区は、決して品川区のようにはない。六本木をはじめ、誰が住んでいるかわからないような、そのカオスから何か新しいものが生まれてくる、そこにおもしろさがある。だからこそ日本の最先端のようなものを知っている場所というところを強調した。(港区は)地理的には近いが、品川はそれとは違うかたちで、コミュニティがしっかりしたまちとして描いていくような魅力になっている。
- ・文化やにぎわいについては、豊島区が懸命に取り組んでいる。副都心線が出来て、新宿、渋谷に負けないようににぎわいを作るということで、豊島区は本当に人を集めて商業的に繁栄させるようなにぎわいを考えている。
- ・それら(港区や豊島区)とは違うにぎわい、人と人との本当に普通に人間志向(のにぎわい)が、昔風の窮屈な縛りにならないかたちで具体的に展開できるのが品川ではないかと、今日の皆さんの話を聞いて思った。

#### **事務局**

- ・にぎわいについて。文化・スポーツの振興だけでなく、振興によってみんなが楽しそうにしている、先ほど、会話をすることにもにぎわいのひとつという意見があったが、ということにもにぎわいだし、商店街のイベント等でのにぎわうのにもにぎわいだし、様々なかたちがある。文化・スポーツは、いろいろな社会の基盤を形成していくという可能性を持っている。それ自体の魅力や楽しみに加えて、まちを作っていく。この「にぎわい」という言葉で、文化・スポーツがまちづくりのひとつの方策というか、可能性を秘めているというイメージを持っている。
- ・横浜のような、キラコンテンツがあって、そこに通って行くのではなく、みんなが文化・スポーツを楽しくやって、なんとなく楽しそうに暮らしているようなイメージ。それを言葉にするのは難しい作業だとは思いますが、ぜひ意見をいただきたい。
- ・「誇り」について。事務局では、まちのアイデンティティ、というかたちで出してみたらどうかという話もあった。アンケート等の意見でも、「誇りに思えるまち」といった意見や、グループアンケートでも「良い意味でのおせっかい、それが品川が誇れるまちだ」という意見もいただいた。あえて誇りという言葉を使っているが、そのあたりも含めて、文言についてもぜひ意見をいただきたい。

#### **委員**

- ・文化芸術・スポーツをすることによって、心の豊かさ、または物的なもの、精神的なものを休息するということに究極の目的があると思う。先ほど港区、新宿区、豊島区、と3つ例を出していただいたが、品川区はそのどれにも該当しない。あくまで主観だが、文化芸術・スポーツを十分に自覚し、味わうことができるようなまちづくり、言うなれば

ば「品川版スローシティ」を目指すような感覚で思いついた。

#### **委員**

- ・先ほどからの意見のように「笑顔」は1つのキーワード。文化芸術・スポーツ活動を通して区民一人一人が輝くような将来まちをつくっていくのがキーワードになる。
- ・スポーツを通じて心と身体健康づくり、という話があったが、健康な身体、健康な精神を持って、自然と笑顔が出てくる。輝くというのは、自ら輝く、文化とスポーツという主体性をもった一人として、という意味で、輝く笑顔、というのは外せないキーワードだと思う。
- ・にぎわいの観点について。改めて区長からの諮問文を読むと3つあった。1.地域のにぎわいにつなげる視点、2.地域の人と人をつなぐ共同を推進する視点、3.まちの資源をつないで新たな活力へ発展させる視点、というのがあって、最初この3つが並列でつながるのは個人的には違和感があったが、2・3を手段として、結果として1の地域のにぎわいにつながる、と読めば理解できる。にぎわいにこだわる必要はないのではないかと思う。
- ・文化芸術・スポーツ活動は、一人でやるよりは二人、四人…。品川区内にあるさまざまな資源や財産を活用して、それが区民ひとりひとりの心の充足感、誇りにつながっていくことで、品川が将来いわゆるにぎわいのあるまちにつながっていくというようにとらえている。

#### **副委員長**

- ・言葉の問題だが、「まちの姿」という、その「まち」はどのレベルで考えているのか。区全域にかかわるようなまちなのか、荏原（のような一地域）とか学校とかの生活レベルでのまちという意味なのか。それによっても、にぎわいや活動の中身のイメージが変わってくる。それぞれ分けて考える必要があると思う。

#### **委員**

- ・（まちの規模のレベルについては）実感からすると、分けるというよりも、双方あると思う。（区内には）町会単位のまちがあるが、お祭りになればみんなで一緒にやるし、（一方では）村意識で生活が成り立っていたり、商店街になると、また跨ってきたり、そういうふうに一つ一つが個性があり、独立したり、あるいは全体で協力し合ったり、兄弟分のように営んでいくのかなと感じる。
- ・「にぎわい」について。例えば、渋谷の109のビルの前は、ある意味で「にぎわい」だと思うが、あそこには人は住んではいない。品川の「にぎわい」とは少し違うかなと感じる。（品川は）ここに住んでいる人、働いている人が主体となって笑顔になる、にぎわいを味わえるのが、品川のにぎわいかなと思う。

#### **委員**

- ・私が住んでいるのは豊町で、豊町が好きだ。だが、他の区などに行くと、品川になる。まちはいろんなかたちで、自分のとらえ方が変わってくる。だから一概に区分せず、「品

川のまち」ということを考えていけばよいと思う。

#### **委員**

- ・私の場合、お祭りや町内の行事の時は、町内だけを考える。区外に行った時は、品川区全体のことを考えながらも、自分が把握しているのはほんの少しなので、その場合でもやはり自分の町会や地区が主になって話をする感じになる。
- ・（骨子案の）第4章の方向性の、「利用しやすい環境づくり」に「どこでも、だれでも」と入っているのでもいいかなとは思いますが、やはり、お年寄りから小さな子どもまで、すべての区民が該当するような文章を入れていただけると有難い。
- ・障がい者の問題では、私たちの地区でキャンプに行くとき、普通のお子さんと比べて少し障がいのあるお子さんが申し込んできた。私たちは専門家ではないので、ちょっとパニックになったときの対処のしようが非常に難しい。障がいのある方も、品川の文化芸術・スポーツに入ってもらえることが表現されていると安心できるのではないか。以前、電車内の結婚式場の広告について、健常者向けの宣伝ばかりで障がい者のことには一切触れていない。障がい者の方がそれを見ると、一歩引くというか、そういった思いにかられるという文章を読んだことがある。やはりこういう全体的なことを出すものであったら、それこそお年寄りも小さな子どもも、ちょっと障がいのある方も、というところを強調していただけたら非常に有難い。

#### **委員**

- ・ここでの議論の中で言っているまちというのは、品川区全体のことを考えようと皆さんはしていると思う。
- ・第3章にある、「にぎわい」や「つながり」については、先ほど渋谷109の話があったが、あそこにはたくさん的人是来ているが、個々の人たちの集団としてのつながりが希薄だと思う。
- ・重要なのは、ここで何をしようとしているかではない。文化芸術・スポーツを通じて、人と人のつながりを深めよう。あるいは、人と人のつながりを深めるときに、品川区にはこういう公園が、施設が、歴史遺産があるじゃないか。それを使ったらもっとつながり方が増えるよね、また人と人の芸術、文化的な要素を持った人がいらっしゃるから、そういうところの交流をしたら、またそれをもって輪が広がるよね、というかたちがつながって、最後、にぎわいにつながっていく。
- ・ここでは、まちの姿は品川区全体で、つながっていくことでにぎわいが発生して、それをするためのいろいろな資産がある。新しいスポーツを作ったり、あるいはあそこへ行くにあんなスポーツの得意な人がいるとわかると、そこから新しいスポーツが生まれたり、あそこにこんな子どもたちがいる、といった育成するためのツールになりえるというかたちで、この第4章が繋がっていくと考えると、3章と4章に書かれている言葉は、表現方法はまだ議論があるかもしれないが、骨子案としてはきちんと書かれていると思う。

### **委員長**

- ・品川区に隣接している目黒区、大田区、世田谷区と比べて、品川区は何が違うのか。何が違うというふうに品川区民はイメージしているのか。

### **委員**

- ・（人と人が）つながっているという部分では、品川は、他の区よりも随分強いと思う。品川のにぎわいのベースにあるのは、「人と人のメンタルなつながり」であり、これが広がっていくことが、おそらく区長が考えているにぎわいにつながるのではないか。ここではむしろ、メンタルなつながり、メンタルなにぎわい、ということにウエイトを置いて話を進めるべきだと思う。

### **委員**

- ・実は私は品川区民ではないが、これまで3～4年品川区で仕事をさせてもらっていて感じていることは、こういう議論をしたときに、品川区民の方は皆さん一体になって本当にまじめに議論をされる。ばらばらでなく、自己中心的でない。これは、品川区の誇りというか、自信を持って、ほかのところに行き行って言えることだと思う。今回のような議論をしたときにいろんな意見が出ているが、これが品川区の大きなポイントではないかなと思う。

### **委員**

- ・以前に企業のモニターをやった時に、目黒区と品川区と大田区の3つの区を比較をした。その企業の人が、「品川区は人情、目黒区は英知、大田区は実行力の区だ」というようなことを言っていた。

### **委員長**

- ・今日の意見を踏まえ、次回の委員会までに2回ほど私と事務局との間で協議し、ビジョンの「素案」のたたき台を作成する。それを次回委員会で諮り、意見をいただき詰めていくような段取りになっている。

## **6 次回日程等について**

- ・次回第5回の委員会の開催は、9月29日（火）午後5時からの開催とする。

## **7 閉会**

以 上